

こどもが まんなか

いわてのWAっこ



いわて幼児教育センター通信
No.1 令和5年4月24日発行

発行・編集

岩手県教育委員会事務局学校教育室
(いわて幼児教育センター)

本通信は岩手県 HP からダウンロード
できます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html>

令和5年度「いわて幼児教育センター」新体制スタートです！

令和5年度がスタートしました。いわて幼児教育センターは、新体制で2年目を迎えました。研修、訪問支援、調査研究・情報共有の三つの機能を生かして、岩手の就学前教育をよりよくするためにがんばります。

どうぞよろしくお願します。🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸

<令和5年度 スタッフ紹介>

- いわて幼児教育センター長 武藤 美由紀
- 主任指導主事 吉田 澄江 瀬谷 圭太
- 主査 道下 龍弥
- 幼児教育専門員 岸 隆子 千葉 満佐子

<いわて幼児教育センターの役割>

- 県内の幼児教育推進体制の構築
- 3つの機能を活かした就学前教育の向上
(研修、訪問支援、調査研究・情報共有)

訪問支援は5月からスタートです！ 🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸

幼児教育専門員による訪問支援は、5月から始まります(文書発出済)。今年度も、県内の保育者の皆さんと一緒に保育の“わくわく”をたくさんみつけないかと思っています。また、『きらきら☆いわてっこ』のコーナーで、訪問した園のキラッと光る子どもの姿や、園の取組を紹介していく予定です。

退任のあいさつ

<3月までのスタッフからエールをいただきましたので紹介します。>

三浦 隆 前センター長

岩手の子どもたち一人一人に、それぞれにとっての幸せ(Well-being)が実現することを願ってやみません。そのためには、子どもたちの保育に携わる保育者の皆さんに、自身の Well-being を感じてもらうことが大切です。子どもに寄り添い、気づきや発見に目を輝かせ、その成長をともに喜ぶ中で、保育に自信ややりがいを見出していく。そんな保育のお手伝いができるならば、「いわて就学前教育振興プログラム」を策定しました。

今後とも、いわて幼児教育センターをご活用いただきながら、各園の教育・保育がますます充実していくことを期待しています。ありがとうございました。

福岡 喜久子 前主任指導主事

いわて幼児教育センターの開設により、県内保育者の皆様との出会いの機会が増えた1年間でした。各園では、それぞれの状況に応じた園運営、ワクワクする保育実践の中で、子どもを真ん中にして、保育者と保護者や地域の方々が心を寄せ合い、各々のウェルビーイングを目指していることを教えていただきました。乳幼児期という大事な時期に関わることができる保育者の仕事を誇りに、一層保育の質の向上と円滑な幼保小の接続に取り組んでいただければと思います。大変お世話になりました。

佐藤 みき子 前幼児教育専門員

1年間大変お世話になりました。私は37の施設を訪問支援に伺いました。幼稚園の経験だけだったので、保育園・こども園の保育は、新鮮で自分自身学ぶことがたくさんありました。先生方が子どもたちのために学びたいと意欲的な姿が嬉しかったです。これからも、幼児教育センターを活用して、子どもを真ん中にして先生方が語り合っ保育を進めてほしいと思います。本当にありがとうございました。

生活リズムを整える



幼児期の終わりまでに
育てほしい姿

(1)健康な心と体
(2)自立心
(3)協同性
(4)道徳性・規範意識の芽生え
(5)社会生活との関わり
(6)思考力の芽生え
(7)自然との関わり・生命尊重
(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
(9)言葉による伝え合い
(10)豊かな感性と表現



思いつきり体を動かす



午睡で休養と睡眠の確保



楽しい給食

今回のテーマは、主に(1)(2)(5)の育ちにつながっていきます。

大人が子どもの生活リズムをつくる

子どもが健やかに成長していくためには、適切な運動、バランスのよい食事、十分な休養、睡眠など、健康的な生活の流れの中で過ごすことが大切です。これは、家庭との連携が大切になってきます。子どもが一日の園生活を気持ちよくスタートし、意欲をもって主体的に活動できるよう、大人が子どもの生活リズムを整えていきましょう。

心がつながるあいさつを



信頼関係の構築

進級・入園のこの時期、新しいひと・もの・こととの出会いで子どもたちの心も揺れ動くことが多いことでしょう。そんなときの保育者の笑顔と元気なあいさつは、子どもにとっては心地よく、さらに「私を大切に思っていてくれた」と心がつながる瞬間になると思います。

毎日、子どもたちと目を合わせ、笑顔いっぱいであいさつするのは「今日も元気に来てくれて、うれしいよ」のサインです。人は、目を見て話してもらえると「自分は受け入れられている」「自分の存在が認められている」という安心感を抱きます。それは信頼関係を築く大切な一歩になります。

大人がお手本を見せる

「ほらあいさつをきなさい」と無理強いをする必要はありません。子どもたちは大好きな大人がお手本となる姿を見せることで、あいさつを交わす心地よさと大切さを学んでいきます。子どもがあいさつする姿を認めたり褒めたりして、喜びや自信につなげていきましょう。自信がもてることで、自分からあいさつをするようになります。

まずは、保育者から心がつながるあいさつを心がけたいですね。



県内各地の園の先生方、そしてその先にいる子どもたちのウェルビーイング(幸福)をめざしていきます。